

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第136期 期末報告書

2016年1月1日～2016年12月31日

CONTENTS

- 1 … 株主の皆様へ
- 3 … 2016年度決算概況
／2017年度業績予想
- 5 … 【特集1】伊藤社長インタビュー
- 7 … 【特集2】クラレノリタケデンタル(株)
有川社長インタビュー
- 9 … クラレグループトピックス
- 11 … 財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … お知らせ
- 巻末 … 会社概要

株式会社 クラレ



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度(2016年1月1日~2016年12月31日)の世界経済は、日本では年度終盤の円安による輸出好調により、景気の緩やかな回復がみられました。米国の景気は個人消費に加えて良好な雇用情勢が追い風となり、好調に推移しました。欧州は緩やかな景気回復が続きました。なお、英国が欧州連合からの離脱を選択したことで先行きに不透明感はあるものの、足もとでは大きな影響はありませんでした。また、中国経済は政府の消費刺激策が功を奏し、景気減速に歯止めがかかりましたが、新興国では景気減速が継続しました。

このような状況において、当社グループは「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現すべく、2015年度よりスタートした中期経営計画「GS-STEP」において掲げた経営戦略を順次実行しています。

2016年度の経営成績につきましては、売上高は前年同期比36,529百万円(7.0%)減の485,192百万円、営業利益は1,749百万円(2.6%)増の67,827百万円、経常利益は1,645百万円(2.5%)増の66,181百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は4,650百万円(13.0%)増の40,400百万円となりました。

2017年度は、米国経済は総じて好調に推移することが期待され、日本、欧州においても緩やかな景気回復が見込まれます。中国では景気後退に歯止めがかかったことにより小康状態が予想されますが、新興国では引き続き成長減速が懸念されます。一方、米国新大統領

の政策、英国の欧州連合からの離脱による欧州諸国との関係性の変化及び欧州主要国で予定されている国政選挙などが、实体经济に与える影響は引き続き予想しづらく、経営環境はますます不透明になっています。また、2016年までの原燃料価格下落によるコストの低下はこれまで当社の業績に追い風となりましたが、2017年度は原燃料価格上昇とそれに伴う製造原価のアップが見込まれます。一方、製品販売価格の調整にはタイムラグが生じることから、2017年度も引き続き一部の製品で販売価格の下落が懸念されます。

2015年度からスタートした中期経営計画「GS-STEP」の2年間は、計画で掲げた5つの主要経営戦略(コア事業の深耕、技術革新、次世代成長モデル、経営資源の最適配置、環境への貢献)の具体的施策を着実に実行してきました。2017年度は「GS-STEP」最終年にあたり、各主要経営戦略で残された施策を確実に実行に移し、高収益を実現するとともに、引き続き事業拡大に向けた経営基盤の構築を推進してまいります。

こうした状況を踏まえ、2017年度は売上高5,300億円、営業利益700億円、経常利益680億円、親会社株主に帰属する当期純利益420億円を目指します。

また、当社は株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、2015年度から2017年度の中期経営計画「GS-STEP」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、且つ1株につき年間配当金36

円以上としています。期末配当金は期初予想から1株につき1円増配し、1株当たり21円とさせていただきます。この結果、当期の配当金は中間配当金と合計しますと1株につき41円(配当性向35.7%)となります。

2017年度の年間配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の予想値420億円を前提に年間配当42円(配当性向35.2%)とさせていただきます予定で。

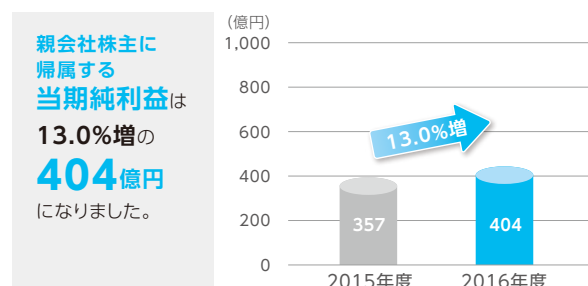
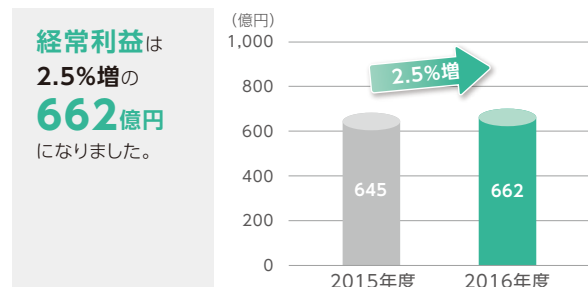
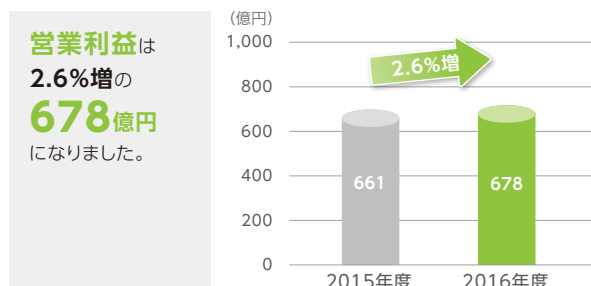
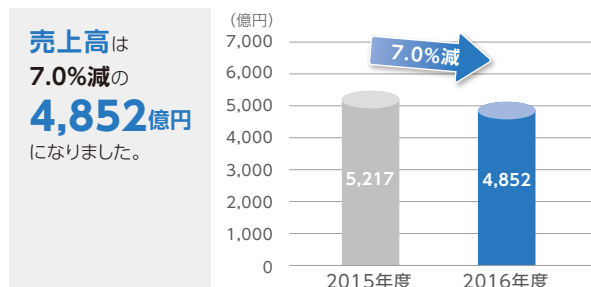
最後になりますが、本年2月21日に当社は浄水施設、ごみ焼却施設に使用される活性炭の製造販売に関して公正取引委員会の立ち入り検査を受け、株主の皆様にはご心配をおかけしていることを心よりお詫び申し上げます。当社は、昨年3月に防衛装備庁が発注する繊維製品の競争入札に関する立ち入り検査を受け、その後、社外の専

門家を招いた講習によるコンプライアンス意識の強化、独占禁止法に関する社内指針の改定、各事業部及びグループ会社への独占禁止法遵守状況のヒアリングなどの再発防止策を講じてきました。そのような中で再び立ち入り検査を受けたことは誠に遺憾であり、この事実を非常に厳粛に受け止め、検査に全面的に協力するとともに、当社グループの役員・従業員一人ひとりがコンプライアンスの重要性を再認識し業務を遂行する取り組みに一層注力してまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 正明

2016年度業績ハイライト



2016年度決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

当社の2016年度の業績は、売上高は円高による影響や原燃料価格下落による製品販売価格低下の影響などで前年同期比減収となりましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全てにおいて、前年同期を上回るとともに過去最高を更新しました。

2016年度 実績

(億円)

	2016年度	2015年度	増減
売上高	4,852	5,217	△365
営業利益	678	661	17
経常利益	662	645	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	404	357	47
期中平均為替レート			
円/ドル	109	121	-
円/ユーロ	120	134	-
国産ナフサ価格/kl	33千円	49千円	-

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	2016年度		2015年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニリアセテート	2,532	585	2,747	557	△215	28
イソプレン	511	69	550	69	△39	0
機能材料	522	46	569	56	△47	△10
繊維	486	60	463	41	23	19
トレーディング	1,195	38	1,196	39	△1	△1
その他	638	20	696	28	△58	△8
調整額	△1,032	△141	△1,005	△129	△27	△12
合計	4,852	678	5,217	661	△365	17

セグメント別の状況

ビニリアセテート

ポバール樹脂は米国新プラントが安定操業に至らず、償却費等を吸収できませんでした。光学用ポバールフィルムは液晶パネル用需要が回復し、販売量が堅調に推移しました。水溶性ポバールフィルムは堅調に推移しました。PVBフィルムの販売は建築用および自動車用ともに順調に推移しました。EVOH樹脂(エバール)は、食品包装用途、自動車ガソリンタンク用途ともに販売が順調に拡大しました。

イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー(セプトン)、液状ゴムとともに堅調に推移しました。耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、自動車用途が拡大を続け、コネクタ用途は回復しました。一方で、LED反射板用途は苦戦が続いています。

機能材料

メタクリルは、厳しい事業環境が続きましたが、期の終盤には販売量が回復しました。メディカルは、歯科材料が新製品の拡充に加え、販売面で事業統合によるシナジー効果が増大し順調に推移しました。人工皮革(クラリーノ)は、為替の円高影響を吸収しきれませんでした。

繊維

ビニロンの高付加価値用途が好調に推移しました。加えて生活資材も(クラブレックス)を中心に順調に推移しました。

トレーディング

化学品関連事業は堅調に推移したものの、繊維関連事業は一部用途を除いて低調な国内需要の影響を受けました。

その他

その他事業は、第1四半期連結会計期間にエネルギー材料事業が加わったことにより開発費が増加しました。

2017年度業績予想

2017年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,500	2,800	5,300
営業利益	320	380	700
経常利益	310	370	680
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	220	420
1株当たり当期純利益	56円90銭	—	119円49銭
1株当たり配当	20円	22円	42円

前提としている平均為替は米ドル110円、ユーロ120円、国産ナフサ36千円/klです。

2017年度 セグメント別予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	1,280	1,410	2,690	286	319	605
イソプレン	265	310	575	28	47	75
機能材料	340	395	735	23	32	55
繊維	260	260	520	27	28	55
トレーディング	600	650	1,250	19	21	40
その他	235	310	545	7	13	20
調整額	△480	△535	△1,015	△70	△80	△150
合計	2,500	2,800	5,300	320	380	700

2017年度 配当金について

42円/株 予定

(中間：20円、期末：22円)

配当性向:35.2%

「GS-STEP」期間中の
利益配分

- 還元性向:35%以上
- 一株当たり配当金:36円以上

セグメント変更について

「活性炭事業」、「エネルギー材料事業」をその他セグメントに区分していましたが、2017年1月1日のクラレケミカル株式会社の吸収合併に伴い、2017年度にはこれらの事業を「炭素材料事業」に統合し、機能材料セグメントへ編入することとしました。

「その他」から「機能材料」へ
変更することとしました。

ビニルアセテート	変更なし
イソプレン	変更なし
機能材料	メタクリル メディカル 〈クラリーノ〉 炭素材料 (含、エネルギー材料事業)
繊維	変更なし
トレーディング	変更なし
その他	活性炭 エネルギー材料事業 アクア事業 エンジニアリング その他

2年連続で最高益を更新。『GS-STEP』最終年度



代表取締役社長 伊藤 正明

Q1 2016年度を振り返って いかがでしたか。

2016年度の業績は為替の円高影響や、酢ビモノマーの自社消費量増加による外部販売の減少により、売上高は4,852億円と減収になりましたが、営業利益678億円、経常利益662億円、親会社株主に帰属する当期純利益404億円と利益は全てにおいて2年連続で過去最高を更新することができました。

事業別では、ポパール樹脂は米国新プラントの立ち上げ遅れの影響で予定通りの生産開始ができませんでしたが、ガスバリア性樹脂(エパール)やPVBフィルムが着実に事業拡大し、繊維事業も高付加価値品の販売が伸長するなど、多くの事業が販売量を伸ばすことが出来ました。

Q2 2016年度に実施した施策を 教えてください。

『GS-STEP』の主要経営戦略に基づき、コア事業の新たな需要や販売地域の拡大に見合う供給体制を整えるため、積極的

な設備投資や設備増強に向けた検討を行いました。

ポパール樹脂は予定から大幅に遅れたものの、米国新プラントの稼働を開始し、日本、米国、欧州、アジアの4極体制強化を進めました。また、ガスバリア性樹脂(エパール)は下期にベルギーで+11,000トンの生産能力増強を完了し、2018年中頃稼働予定で米国での+11,000トン増強の投資決定を行いました。これにてグローバルに伸びていく食品包装材料用、ガソリンタンク用などの需要に対応していきます。水溶性ポパールフィルムは上期に新工場が完成し、稼働しました。今後も、旺盛な洗剤用フィルム需要に対応するため、随時タイムリーな生産能力増強を検討していきます。PVBフィルムは韓国工場での生産設備投資を決定し、2018年初稼働を予定しております。主にアジア地域の自動車用途向けの高機能フィルムを生産していく予定です。インプレン事業では、インプレン、エラストマー、〈ジェネスタ〉のタイにおける新プラントの建設を含めた事業化可能性について検討を開始しました。さらに、生産技術の革新として〈ベクトラン〉の生産効率の向上に繋がる製造プロセスを確立しました。

また、当社は2014年に米国デュポン社からビニルアセテート関連事業の買収後、海外拠点が大幅に広がり、グローバルで経営情報などを即時に取得する必要性が高まっております。そのため、グローバルITシステムの構築の一環として、2017年よりグローバルSAPを導入し、データの即時一元管理ができるように進めてまいります。

Q3 2017年度の重点施策を 教えてください。

『GS-STEP』の主要戦略に基づく具体的施策を着実に実施いたします。

『コア事業の深耕』として、ポパール樹脂は2016年にトラブルに見舞われて通常操業が出来なかった米国工場の通常生産を行い、世界4極体制で生産の効率化を進めて、さらに販売、開発を一層強化してまいります。光学用ポパールフィルムは新設備の速やかな立ち上げを行います。水溶性ポパールフィルムは順調に拡大する個包装洗剤用等の需要に応えるため、昨年稼働した新設備に続き、更なる生産能力増強の検討をしてまいります。PVBフィルムは自動車用途へのマーケティング

もやるべきことを着実に実行する。

をさらに強化し、高機能フィルムなどグローバルで積極的な販売展開を行っていきます。また、2016年に検討を開始したイソプレン、エラストマー、〈ジェネスタ〉のタイ新工場における事業化判断を行います。

「技術革新」に基づく施策として、原料一貫生産の優位性を最大限に生かすため、光学用、水溶性ポパールフィルム、PVBフィルムなどのフィルム製品に関して、原料であるポパール樹脂の独自技術開発を行い、顧客のニーズに合う高機能フィルムの開発など、更なる高付加価値化を進めます。また、各種ポリマーの重合工程などで使用する触媒の開発を継続して推進します。

「次世代成長モデル」では、新たに発足した炭素材料事業部において、従来の活性炭の用途・地域拡大を推進するとともに、電池材料などのエネルギー関連材料を成長ドライバーとして、事業の強化・拡大を目指します。

「経営資源の最適配置」として、グローバルな情報管理・共有システムを導入・活用していきます。具体的には、経営情報と会計情報を管理するグローバルSAPシステムやグローバル人材育成強化の一環としてグローバル人事システムの運用を開始します。

中期経営計画「GS-STEP」では最終年度である2017年度に売上高6,500億円、営業利益900億円を業績目標として掲げていますが、事業を取り巻く環境の変化により拡大のスピードが遅れた事業や戦略の修正を余儀なくされた事業などもあり、現時点で目標の達成が困難な状況です。このような状況を真摯に受け止め、2017年度は「GS-STEP」最終年にあたり、残された課題を確実に実行していくとともに、施策の効果発現が遅れている事業や市場環境の変化などにより見直しが必要な事業においては戦略の修正を行い、2018年から新たに始まる次期中期経営計画に繋げていく所存です。

Q4 『働き方改革』について当社の取り組みを教えてください。

当社では2016年度から女性活躍推進への活動を本格的にスタートし、女性が活躍できる職場の拡大や仕事と家庭を両立しながら勤務を継続できる制度の充実などに取り組んでいます。

まず、当社が女性活躍推進活動を含めた働き方改革に関し、目指すべき職場環境は下記のとおりです。

- ① 仕事を通じて誇りや幸せを実感できる会社
- ② 一人ひとりが自分の持ち味を活かして成果を発揮できる会社
- ③ 一人ひとりが有限である自分の時間の過ごし方を大切に、所定労働時間を意識して仕事ができる会社

これらを実現するためには、目的に沿ったムダのない仕事のやり方へと見直すこと、社員がそれぞれ異なる考え方や属性を持つ多様な存在であることを意識してコミュニケーションを取ること、仕事の目的や背景を明確に伝え、お互いに納得・共感して仕事をするのが大切になります。これは女性に限らず、グローバル展開で増加していく海外現地社員なども含めた多様性に対するダイバーシティー・マネージメントの第一歩であり、全世界のグループ社員それぞれが生き生きと働くために必要だと考えています。

まず、2016年度は女性活躍推進の必要性を再認識し、方向性を共有することを目的に役員・事業部長・本部長・事業所長を対象にワークショップを実施しました。

今後も継続して取り組みを進める上で、働き方の改革にも繋がる女性活躍推進を女性のためだけに留めるのではなく、男性・女性を問わず多様な働き方に対応する社員のワーク・ライフ・バランス環境を整える活動にすることを目指して取り組んでいきます。



～大切な歯と笑顔のために～ クラレノリタケデンタルが目指



クラレノリタケデンタル(株) 代表取締役社長 有川 清之

を削り、詰め物やかぶせ物をするといった治療を行います。当社は主にこの詰め物(直接修復)やかぶせ物(間接修復)による治療のための製品の開発、製造、販売を行っています。(図1)

このような治療には、長年、金属製の材料が多く使用されてきましたが、最近では治療痕や修復痕が目立たない、より審美性の高い材料による治療が望まれる傾向があります。さらに、歯科用金属であるレアメタルの高騰も相まって、「脱金属」の流れが加速しています。そのような中で、有機・無機材料技術、加工技術、接着技術を生かした当社製品は歯科業界でも高い評価をいただいています。



クラレノリタケデンタル製品

Q1 クラレノリタケデンタル(株)の概要を教えてください。

当社は2012年4月にクラレグループのクラレメディカル(株)とノリタケカンパニーグループの(株)ノリタケデンタルサプライの統合により発足し、クラレグループのメディカル事業の中心的役割を担っています。クラレメディカル(株)は、〈クリアフィル〉ブランドに代表される歯科用ボンディング材、コンポジットレジン、セメントといった有機系歯科材料に、(株)ノリタケデンタルサプライは、〈カタナ〉ブランドに代表される歯冠用ジルコニア、陶材といった無機系歯科材料に強みを持ち、両社の特長ある事業分野や技術力を組み合わせることによって事業を拡大しています。

Q2 クラレノリタケデンタル(株)の歯科材料はどのように歯の治療に使われるのでしょうか。

皆様も一度は歯科医院でむし歯などの治療をされた経験があるのではないのでしょうか。むし歯の治療ではむし歯になった場所



図1) 歯科治療概略図

す歯科医療の未来

Q3 事業戦略について教えてください。

当社は中期経営計画「GS-STEP」で、「事業領域の拡大」と「主力分野の強化」を掲げ事業拡大を推進しています。「事業領域の拡大」においては、(株)ノリタケデンタルサプライとの統合による製品のラインアップの拡充で審美的で機能性の高い金属代替材料の開発を推進するとともに、CAD/CAM(※1)を最大限利用した市場拡大を進めています。近年、歯科治療のデジタル化が急速に拡大し、歯科用CAD/CAMに適した審美性に優れた高機能な材料が求められていますので、当社の強みが発揮でき大きな成長を期待しています。また「主力分野の強化」では、歯科用ボンド、コンポジットレジン、セメント、歯冠用陶材といった当社主力製品の高度化と海外展開を加速しています。

※1) 口腔内などの様子をデジタルデータにし、そのデータを元にコンピュータでかぶせ物などを設計・制作するシステム



CAD/CAM機器で製作されるクラウン(かぶせ物)

Q4 新製品を多く市場に投入しているそうですが、期待している新製品について教えてください。

2014年よりCAD/CAM機器で製作するレジンクラウン(かぶせ物)が保険適用となりました。現在は小臼歯(前歯と奥歯の間にある歯)のみの適用ですが、今後の適用拡大が期待されています。当社でも統合によるシナジー効果を生かした製品を2015年より販売しています。2017年度には高審美ジルコニアで培ったグラデーショナル(マルチレイヤー)技術を応用し、より天然歯に近い修復が行えるレジンブロックの販売を予定しています。また、新たなソリューションとして、3Dプリンター技術を取り込んだ独自のCAD/CAM事業を検討中です。

Q5 海外展開について教えてください。

現在当社は米国、欧州そして中国に拠点を置き、世界90カ国以上に製品を輸出しています。海外での売上比率は年々高くなっており、全世界の歯科医師に迅速で効果的なサポートを提供できるように主要国に代理店を設置し、積極的なマーケティング活動を行って、製品を販売しています。また、グローバルな事業展開を図るべく、海外の機器メーカーとの提携等を推進するとともに、歯科医療のトレンドを牽引できる会社を目指しています。

Q6 将来の事業像について教えてください。

少子高齢者社会が進む中、『健康な心と身体は口腔から』とも言われているように、口の中の健康を保つために歯科医療が果たす役割は益々重要性を増しています。8020運動(※2)の成果により、中・高齢者の残存歯が増加する半面、歯根部のむし歯や歯周病の増加など、歯科における疾病構造が変化しており、歯科治療のニーズは中・高齢者にシフトしています。このような環境下、当社はCAD/CAM事業に加え、高齢者を対象とした予防分野へ事業領域を拡大し、健康寿命の延伸と歯科医師や患者の皆様の負担軽減を目指した製品開発を推進します。

メディカル関連事業に取り組む会社として、当社は歯科医療への貢献と皆様の笑顔のために活動する会社でありたいと思います。

※2) 1989年から厚生省(当時)と日本歯科医師会が推進してきた「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動



2016年度のクラレグループの主なニュースをご紹介します

「第2回クラレカップ ジュニアサマージャンプ朝日大会」を主催

女子スキージャンプ高梨沙羅選手と当社は朝日スキー連盟、北海道士別市関係者の皆様のご支援のもと、昨年に引き続き2016年7月28日に「第2回クラレカップ ジュニアサマージャンプ朝日大会」を主催いたしました。

本大会は高梨選手の、ジュニア世代の選手が参加できる大会をより増やしていきたいという想いに応えて、当社が社会貢献活動の一貫として昨年から実施しているものです。当日、高梨選手は大会アンバサダーとして、競技を終えたジュニアジャンパーのみなさんに参加賞を配るなど、大会の運営に携わりました。

当日は第1回を大きく上回る87名の小学生・中学生ジャンパーが参加しました。特に女子ジャンパーが格段に増え、高梨選手の影響の大きさ、ジュニアジャンパーが徐々に育成されていることを感じる大会となりました。



上位入賞者にメダルを授与する高梨選手



ジャンプ台をバックに参加選手と高梨選手とで記念撮影

PTTグローバルケミ ブタジエン誘導品事

9月13日、当社はPTT Global Chemical Public Company Ltd. (PTTGC) および住友商事株式会社と共同で、タイにおけるブタジエン誘導品の製造販売事業に関する詳細検討を進めるための合意書を締結しました。また同日、3社共同で記者会見を開催しました。

今後3社で、2020年の設備稼働開始を目標に、タイにおける耐熱性ポリアミド樹脂PA9Tおよび水素添加スチレン系熱可

2016年

1月

7月

8月

9月

2016年1-6月の クラレグループトピックス

- クラレグループが第46回「織研合織賞」でダブル受賞
- モノソル新工場の竣工式を開催
- クラレアメリカ ポバール樹脂新プラント稼働
- EVOH樹脂〈エパール〉生産能力の増強を決定
- 山形・クラレ蔵王シャンツェのサマーヒル化記念開場式

〈ジオダイナ〉が九都県市合同防災訓練の現地本部用テ

9月1日防災の日には埼玉県さいたま市で実施され、安倍首相はじめ主要閣僚も視察に訪れた「九都県市合同防災訓練」に、当社の防災用テント〈ジオダイナ〉が現地本部用テントとして使用されました。

本訓練は首都圏で発生する大規模災害を想定し、政府をはじめ警察、消防、自衛隊などの関係機関が連携し、自治体が主催する国内で最大規模の防災訓練です。

〈ジオダイナ〉はハイランドテクノ株式会社と共同開発した屋根幕に高強度ポリアリレート繊維〈ベクトラン〉を使用した防災用テントです。屋根幕とフレームが一体構造



訓練の模様

します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

カル社、住友商事株式会社との 業の詳細検討開始

塑性エラストマーの事業化の詳細検討を進め、2017年後半に当該合併事業に係る最終投資判断を行う予定です。また当社単独で、タイでのイソブチレン誘導品MPD(メチルペンタンジオール)の生産設備建設の検討も行い、2017年後半に最終投資判断を行う予定です。

PTTグループから競争力のある原料、およびユーティリティの供給と、住友商事のマーケティングチャネルを融合し、当社が有する当該製品の製造技術、販売マーケティングノウハウを組み合わせ、ブタジエン、イソブチレン誘導品事業のグローバルでの拡大に向けて検討を進めてまいります。



調印式の模様(左から)住友商事 藤田代表取締役専務執行役員、当社伊藤社長、PTTGC Supattananpong社長



記者会見の模様(左から)PTTGC Patiparn COO、Supattananpong社長、当社阿部常務執行役員、住友商事 坂本理事

クラレケミカルの吸収 合併を決定

当社は9月28日に炭素材料事業の早期拡大を企図し、当社100%出資の子会社であるクラレケミカル株式会社を吸収合併することを決定しました。

なお、合併は予定通り2017年1月1日に完了しました。機能材料カンパニー内に炭素材料事業部を新設し、当社のエネルギー材料事業とクラレケミカル株式会社の活性炭事業を統合するとともに、クラレケミカル株式会社の鶴海工場を鶴海事業所に名称変更しました。

10月

11月

12月

ントに採用

のため、運搬から設営まで成人男性4人で作業でき、わずか30秒程度で設営可能です。

現在拡販中の〈ジオダイナ〉ですが、今回の実績を生かし、自治体、民間企業などの防災、減災、危機管理に対応する製品として展開を加速します。

「第29回 岡山吉備高原車いすふれあいロードレース」に協賛

「岡山吉備高原車いすふれあいロードレース」(主催・岡山県、吉備中央町ほか)は、障害のあるなしに関わらず、同じフィールドで競い合い、触れ合うことのできる全国でも珍しい大会で、クラレグループは昨年より社会貢献活動のひとつとして大会に協賛するとともにボランティアとして参加しています。今回も10月9日(日)に開催され、岡山・倉敷事業所、くらしき研究センターほか、東京・大阪本社から40名近いグループ社員が、給水ボランティアスタッフとして参加しました。

当日は、心配された天気も晴天に恵まれ、伊藤社長もボランティアスタッフとして参加するなど、グループ一体となって応援や給水を行いました。



白バイに先導され、スタートする車いすランナー

2016年度

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1	前期*2	増減
売上高	4,852	5,217	△ 365
売上原価	3,177	3,551	△ 374
売上総利益	1,674	1,666	9
販売費及び一般管理費	996	1,005	△ 9
営業利益	678	661	17
営業外収益	49	39	10
営業外費用	66	55	11
経常利益	662	645	16
特別利益	—	11	△ 11
特別損失	57	71	△ 14
税金等調整前当期純利益	605	585	20
法人税、住民税及び事業税	175	183	△ 8
過年度法人税等	—	15	△ 15
法人税等調整額	18	23	△ 4
当期純利益	412	365	47
非支配株主に帰属する当期純利益	8	7	△ 1
親会社株主に帰属する当期純利益	404	357	47

*1: 2016年1月1日~2016年12月31日 *2: 2015年1月1日~2015年12月31日

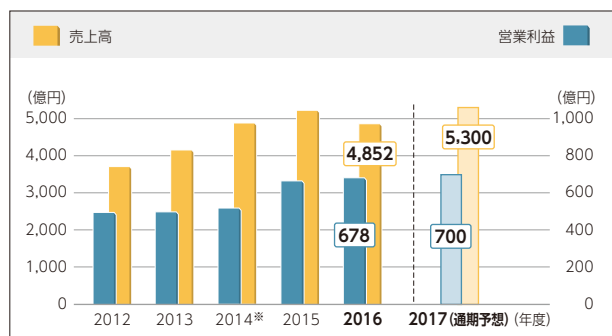
連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

資産の部	当期*1	前期*2	増減
流動資産	3,250	2,965	285
現金及び預金	514	370	144
受取手形及び売掛金	1,050	1,021	29
有価証券	391	188	203
棚卸資産	1,113	1,122	△ 9
繰延税金資産	60	76	△ 16
その他	127	194	△ 68
貸倒引当金	△ 5	△ 6	2
固定資産	4,005	4,053	△ 48
有形固定資産	2,718	2,620	98
建物及び構築物	543	540	4
機械装置及び運搬具	1,630	1,280	350
建設仮勘定	299	566	△ 267
その他	246	235	11
無形固定資産	795	840	△ 44
投資その他の資産	491	593	△ 102
投資有価証券	340	461	△ 120
その他	151	133	18
貸倒引当金	△ 0	△ 1	0
資産合計	7,254	7,018	237

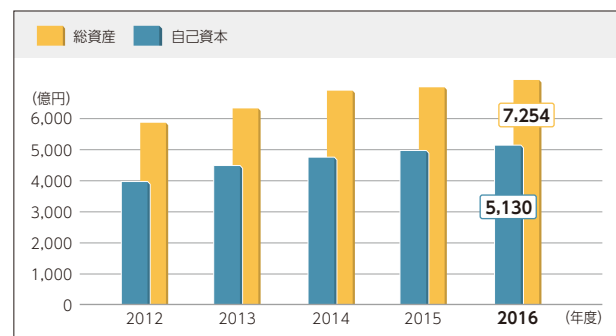
*1: 2016年12月31日現在 *2: 2015年12月31日現在

売上高・営業利益



* 2014年度は2014年1月~12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

総資産・自己資本



※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
流動負債	961	955	7
支払手形及び買掛金	364	383	△19
短期借入金	76	72	4
その他	521	499	22
固定負債	1,083	1,027	56
社債	100	100	—
長期借入金	422	423	△1
その他	561	505	57
負債合計	2,045	1,982	63
純資産の部	当期*1	前期*2	増減
株主資本	4,764	4,507	258
資本金	890	890	—
資本剰余金	872	871	0
利益剰余金	3,043	2,789	254
自己株式	△40	△43	3
その他の包括利益累計額	365	454	△89
その他有価証券評価差額金	109	108	1
繰延ヘッジ損益	△1	△0	△1
為替換算調整勘定	301	394	△93
退職給付に係る調整累計額	△43	△48	5
新株予約権	7	8	△1
非支配株主持分	73	67	6
純資産合計	5,210	5,036	174
負債及び純資産合計	7,254	7,018	237

*1: 2016年12月31日現在 *2: 2015年12月31日現在

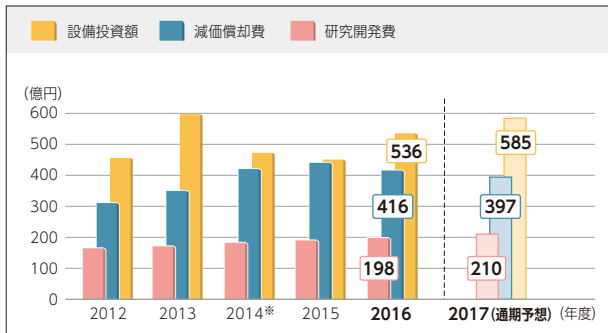
連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	939
税金等調整前当期純利益	605
減価償却費	416
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△244
その他営業活動による支出	163
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△493
有形・無形固定資産の取得による支出	△500
その他投資活動による収支	7
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	△147
借入金の純増減額	4
配当金の支払額	△149
その他財務活動による収支	△1
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	△15
5.現金及び現金同等物の増減額	284
6.現金及び現金同等物の期首残高	548
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	2
8.現金及び現金同等物の期末残高	834

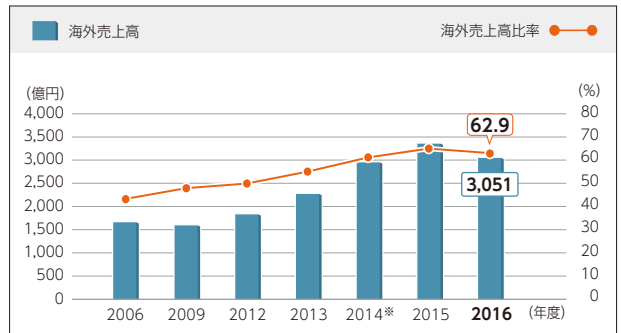
*1: 2016年1月1日～2016年12月31日

設備投資額・減価償却費・研究開発費



* 2014年度は2014年1月～12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

海外売上高推移



* 2014年度は2014年1月～12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

株式情報について

株式の状況

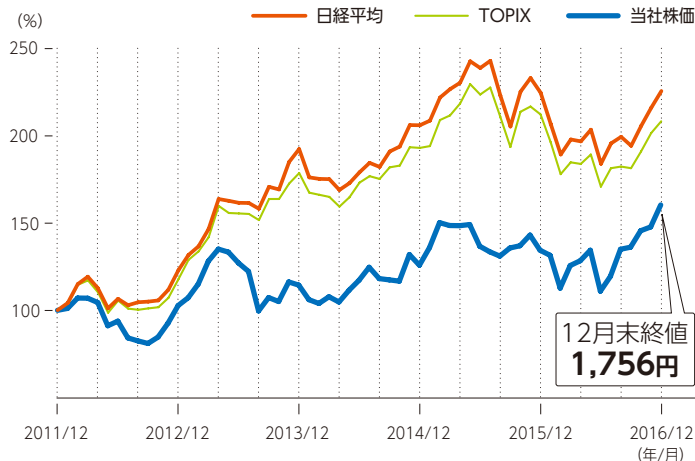
■ 発行可能株式総数	■ 発行済株式の総数	■ 株主数
1,000,000,000 株	354,863,603 株	41,848 名

株主構成 (持株比率)



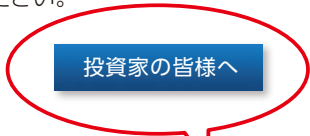
当社株価と主要指標との比較 (2011年12月~2016年12月)

2011年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。

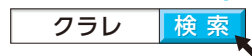


投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。是非ご覧ください。



<http://www.kuraray.co.jp>



株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

アンケートご協力のお願い

「クラレ通信」をご覧くださいまして、ありがとうございます。

今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたいと思っております。つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただいております。将来的にWebのみの受付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には、もれなく

**不織布衛生ふきん〈クラフレックス〉
カウンタークロス〈モノデュア〉
5枚入り1セットをプレゼントいたします。**

2017年
4月28日(金)
まで

多くの飲食店で使用されている〈クラフレックス〉カウンタークロス〈モノデュア〉を皆様のご家庭に。高い吸水性を持ちながら、汚れが落ちやすく乾燥が速いため、雑菌が繁殖しにくい衛生的です。洗濯と漂白も可能で、繰り返しお使いになれます。



アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN®やGoogle®などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば 検索

または、下記URLを入力ください。

kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●●●●

⇒ アンケート画面に進む

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部 電話：03-6701-1075
平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

*インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受け付けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。



このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン (IR支援会社) が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

会社概要

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2016年12月31日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp

クラレグループの主な事業

ビニリアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
インフレン	インフレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造・販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
 2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
 3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2017年3月24日現在)

代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	松山 貞秋
取締役・専務執行役員	久川 和彦
取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・常務執行役員	中山 和夫
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	豊浦 仁
取締役(社外取締役)	浜口 友一
取締役(社外取締役)	浜野 潤
常勤監査役	村上 敬司
常勤監査役	雪吉 邦夫
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	名倉 三喜男
常務執行役員	柏村 次史
執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
執行役員	ジョージ アブディ (George Avdey)
執行役員	山根 幸則
執行役員	大村 章
執行役員	林 洋秀
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	ステファン コックス (Stephen Cox)
執行役員	津軽 利紀
執行役員	高野 浩一
執行役員	高井 信彦
執行役員	尾松 俊宏
執行役員	川原 仁
執行役員	鈴木 一
執行役員	中村 育雄
執行役員	松崎 一朗
執行役員	多賀 敬治

【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

所 属：(株)クラレ 鶴海事業所
 技術部 設備技術グループ
 名 前：松尾 一志
 タイトル：微笑み
 撮影場所：岡山県岡山市 備中高松城址

撮影者のコメント：初夏の早朝、備中高松城址の宗治蓮を写真撮影に訪れました。朝露に濡れた蓮池の畦道は、歩くに靴とズボンを濡らしますが、良い写真を収めようと足元に気にせず撮影している私を見て蕾は微笑んでいるようでした。